

田沢湖芸術文化協会「写真部」

写真展示会を開催

6月24日から27日までの4日間、田沢湖芸術文化協会写真部（難波和夫会長）がJR田沢湖駅内の田沢湖観光情報センター「フォーレイク」で写真展示会を開催、地元の方々や観光客が訪れ、市内の自然などをとらえた写真を熱心に見る姿が見られました。

新型コロナウイルス感染症の影響により3年ぶりの開催となった展示会には、友情の滴で撮影したホテルや秋田駒ヶ岳からとらえた雲海、たつこ像など会員14人が撮影した作品31点が展示されました。

難波会長は「3年ぶりの開催で不安な部分もあったが、会員の意欲もあり展示する写真が揃った。開催してよかった」と話しました。



市内の風景や風俗をとらえた渾身の1枚が展示されました。



受賞の報告に訪れた安藤大輔会長（左）と桑島功専務理事（右）。

この度、一般社団法人田沢湖・角館観光協会が一般社団法人東北観光推進機構が主催する「フエニックスアワード2021」を受賞、6月20日に同協会の安藤大輔会長らが市役所田沢湖庁舎を訪れ、田口市長に受賞を報告しました。「フエニックスアワード」は、東北6県と新潟県において、観光振興を通じた地域の活性化に貢献し、その功績が顕著であった団体と個人を表彰するもので、今回が2回目となります。応募のあった10の団体・個人の中から同協会を含む3団体が選ばれました。

同協会は、コロナ禍によるアウトドアニーズに注目し、田沢湖を中心とした新スタイルのアクティビティ造成やナイトタイムの過ごした方の提案、たざわ湖スキー場と連携した受入態勢の整備などが評価され、今回の受賞となりました。

観光振興を通じた地域の活性化に寄与

一般社団法人田沢湖・角館観光協会が「フエニックスアワード2021」を受賞

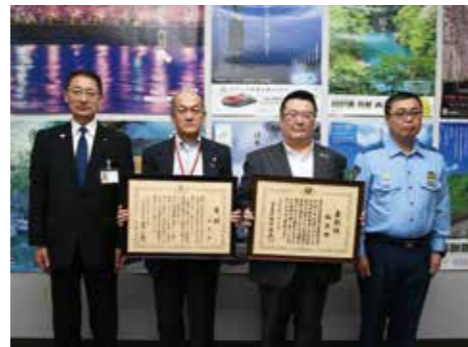
交通死亡事故ゼロ

仙北市が730日を達成

仙北市は令和2年5月25日から交通死亡事故ゼロを継続し、令和4年5月24日に730日を達成しました。

6月29日、市役所田沢湖庁舎で秋田県知事の表彰状と秋田県警察本部長の顕彰状の伝達式が行われ、齋藤正和仙北地域振興局長と太田誠仙北警察署長から田口市長にそれぞれ授与されました。

田口市長は「730日達成は市民の皆さんや市内の交通安全に関わる方々の意識の結果であり、大変嬉しく思う。仙北市は観光地なので県外からの観光客も含めてこれからも継続して死亡事故ゼロの日数を重ねていきたい。また、これを契機により一層交通安全の意識を高めて取り組んでいきたい」と話しました。



左から齋藤正和仙北地域振興局長、高橋危機管理監、田口市長、太田誠仙北警察署長。

射撃の腕を競う

令和4年度 第2回角館猟友会クレー射撃大会

6月26日、田沢湖クレー射撃場で令和4年度第2回角館猟友会クレー射撃大会が開催され、出場した15人が射撃の腕を競いました。

- 優勝 菅原清一（西長野） 21点  
準優勝 相馬正男（白岩） 20点  
第3位 鈴木治（下延） 20点  
第4位 笹渕誠（表町） 20点

結果（敬称略）



右から角館猟友会の鈴木治さん、菅原清一さん、相馬正男さん、笹渕誠会長。

お囃子と手踊りで観客を魅了

角館  
三二劇場

飾山囃子葵会と田口民謡会が華麗に披露

6月26日、角館庁舎で角館三二劇場が開催され、飾山囃子葵会と田口民謡会によるお囃子と手踊りが披露されました。

コロナ禍で人前での披露はおよそ2年半ぶりとなったこの日は、寄せ囃子から始まり拳囃子や荷方囃子などを披露、角館庁舎はお祭りの雰囲気になりました。

全14曲を終えるとアンコールの拍手が上がり、さらに1曲披露しました。

葵会の小松春治代表に演奏前にお話をうかがうと「コロナでお祭りが2年中止になりお囃子も聞く機会がなかった。そんな中で、まちを明るくし、元気を取り戻してほしいという思いから今回の開催に至った。市民の皆さんに喜んでもらえるように一生懸命演奏したい」と話しました。



華やかな手踊りを披露しました。



力強い演奏に訪れた方々は聴き入っていました。

幕張メッセで開催された国内最大級のドローン専門展示会

Japan Drone 2022に参加しました！



パネルディスカッションの様子。

6月21日～23日、千葉県千葉市の幕張メッセでJapan Drone 2022が開催されました。今回で7回目となるこのイベントは、国内最大級のドローン展示会で、ドローンの最新機種が一堂に展示されており、187社・団体が出展し、3日間で1万7021人が訪れました。

仙北市は、これまでのドローンへの取り組みが評価され、同イベント内の自治体フォーラムに招待され、オンライン登壇やブース出展でのPRの機会をいただきました。

フォーラムは、一般社団法人日本UAS産業振興協

議会議長である東京大学名誉教授の鈴木真二氏の進行で行われました。内閣官房小型無人機等対策推進室参事官の小熊弘明氏のあいさつ後、仙北市のドローンによるスマート農業や農産物運搬の実証実験などの取り組みを発表しました。

仙北市以外の自治体では、埼玉県秩父市、愛知県豊川市、兵庫県神戸市、長崎県五島市がフォーラムに参加していました。各自治体の発表に加え、パネルディスカッションでは、実証実験を通してのドローンに対する意識の変化や実用化に向けた課題について意見交換をしました。

この見学会は、趣旨に賛同する協賛事業所の協力をいただき、きれいな建設機械が準備され、園児たちは記念撮影をして最後にお土産をもらって笑顔で帰っていました。



様々な建設機械に子どもたちも大興奮でした。

地域貢献活動の一環として

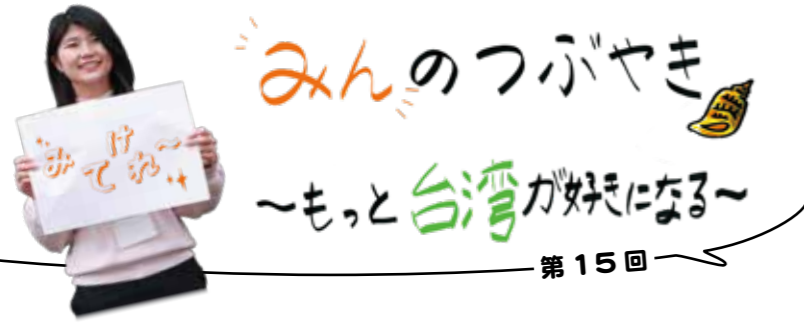
佐藤建設株式会社で建設機械の見学会

6月24日、佐藤建設(株)の敷地内で建設機械の見学会が行われました。

これは、地域貢献活動の一環として行われたもので、見学会としては昨年に続き2回目の開催となります。以前は、地域貢献活動として学校周辺のカーブミラーの清掃や環境整備を実施していたものの、新型コロナウイルス感染症の影響で課外活動ができず、どこにも行くことができないと、だしのこの園の話を聞いた同社が、地域貢献活動の一環として始めたものです。

当日は、あいにく雨が降ったりやんだりする天気となりましたが、園児は作業員の方に手伝ってもらってヘルメットをかぶり、大きな建設機械に乗車して体験していました。





第15回

7月に入り 2022年の折り返し地点に立っていることに気づき、歳月が流れる速さにびっくりしています。どうも台湾出身仙北市国際交流員の黄敏(ファンミン)です。

姉妹湖締結先の高雄市はどういうところ?

コロナ禍によりここ数年難しくなった海外渡航、やっと最近は国境の開放について明るい兆しが見えてきました。私が所属している交流デザイン課は昨年度に引き続き、仙北市内全中学校、角館高校、大曲支援学校せんぼく校が台湾の学校とのオンライン交流を計画、さらに今年度は新たに白岩小学校でも実施しました。青少年国際交流の輪が少しずつ広がっているように感じます。来年度以降には生徒たちが実際に現地に渡り、海外の風を感じられたらと期待しております。

さて、今年には田沢湖と台湾高雄市にある「澄清湖」の姉妹湖締結35周年という記念すべき年であり、また田沢湖マラソンと高雄マラソンが2019年に相互交流に対し合意を象徴するMOU(基本合意書)を交わしました。そこで今回は仙北市ととても縁がある高雄市と澄清湖をご紹介します。高雄市は台湾南部に位置し、新北市・台中市に次ぐ台湾第三の都市であり、人口は約272万人。台湾で一番大きい港「高雄港」を有し、古くから海外との貿易が盛んで港町として栄えています。北緯23°に位置している高雄市の気候は、月平均気温で一番暑い7月は29.4℃、一番寒い1月は19.7℃で、暖かい気候が通年続いており、その気候から高雄市民の性格も温かくて親切なことで評判です。

高雄市で一番大きい湖である澄清湖は台湾西湖とも呼ばれ、普段から市民の憩いの場として活気にあふれています。1987年に田沢湖と姉妹湖締結し、お互いの地区を訪問するなど交互交流を行うほか、田沢湖写真展を数回開催していただき、田沢湖の魅力を高雄市民にも伝えてくれています。そして、今年10月・11月頃には仙北市でも、姉妹湖締結35周年を記念した台湾関連イベントを開催する予定です。情報が決まり次第仙北市広報および仙北市ホームページに掲載しますので、ぜひお見逃しなく! 皆さんのご参加を待ちますな~!

最後に澄清湖に行ってみてみたい方に朗報です。日本の新幹線技術を輸入した台湾高速鉄道は、約342キロ離れた台北と高雄間の交通時間を1時間34分まで短縮しました。台北へ旅行する機会があれば、ぜひ日帰りでもお泊まりでも高雄まで足を運び澄清湖に遊びに行ってみてください! 詳しい高雄の観光情報は高雄観光局の日本語版公式ホームページ (<https://khh.travel/ja/>)、または二次元コードからご覧ください!



高雄の紹介



台湾南部に位置する高雄市の夜景



姉妹湖締結をしている澄清湖



澄清湖園内のきれいな風景



田沢湖マラソンと相互交流の高雄マラソン

百寿

おめでとう  
いけいけおめでとう

6月30日、島澤タケさん(西木町西明寺)が100歳の誕生日を迎えられ、特別養護老人ホームかくのだて桜苑でお祝いが行われました。当日は、家族の皆さんが集まり、仙北市からお祝いと花束が贈呈されました。



大澤市民福祉部長(左)からタケさん(中央)にお祝いが贈られました。



茅葺き屋根の古民家宿を始めました  
東風平 蒔人

皆さんお久しぶりです。地元紙やテレビに取り上げられたので、すでにご存じの方も多いかと思いますが、今年の5月から角館で茅葺きの曲がり家「西の家」という古民家宿を事業承継しました。元々宿泊業をなさっていたご夫婦から事業を引き継いだ形です。地域おこし協力隊の退任後の定住に向け、現在は副業という位置づけで週末と祝日のみ営業しています。移住者だからこそ伝えられる秋田のよさをアピールできたかなと思っています。私のチャレンジをいつも皆さんが後押ししてくれて本当にありがたい限りです。さて、今回は私が茅葺き屋根に心酔しているワケをお伝えします。主に二つあります。一つ目は、古民家の建物自体が先人たちの知恵で溢れている点です。屋根の材料となるススキやヨシは1本ではとても心許ないですが、束ねて定期的に葺き替えれば、むしろ現代の建物よりもはるかに長く住める素晴らしい素材です。また、茅葺き屋根は世界で唯一製造段階で二酸化炭素を排出しません。むしろ植物の成長段階で二酸化炭素を吸収してくれます。廃材となっても無

害で土に還ります。昔からある建築技術がエコの最先端を走っているのです。二つ目は、茅葺き屋根が「相互扶助」の精神で成り立つ点です。集落一帯が茅葺き屋根だった頃は毎年全戸で材料を刈り取り、集落が一つのチームとして毎年割り当てられた家の葺き替えを手伝っていました。そこには「結」の文化が自然と生まれ、地域住民のコミュニケーションの場として大事な役割を果たしていました。私はこの茅葺き屋根独特の文化を現代版で復活させたいなと思っています。「私」が茅葺き屋根を守るのではなく、「共同体」で継承し、皆が楽しみを共有する場所を作っていきたいです。そんな思いから、6月には、様々な方と一緒にコラボイベントを開催しました。台湾の友人たちとは台湾料理の体験イベント、国際教養大学の後輩たちとは地域の子どもたちに向けた留学体験報告会、角館の酒屋さんとは利きワインのイベント、由利本荘市の沖縄力フェとは沖縄料理の体験イベントをそれぞれ開催しました。市民の皆さんとも色々コラボして、盛り上げていきたいです。たくさんのお声がけをお待ちしています。